

データ制作ガイド



[記者会見・デザインバックパネル]

- データ作成時の注意
- 入稿データサイズ
- 制作時のポイント

データ作成時の注意

データ入稿は、「完全データ」での入稿をお願いしております。弊社でデータ確認を行った際に下記の注意事項をクリアしていない場合はお客様に修正していただき、再入稿いただく必要があります。
納期遅れを防ぐ為にも、必ずご一読いただき「完全データ」としてのご入稿をお願いいたします。



Word、Excel、Powerpointでは 完全データでのご入稿はできません

有料にてWord、Excel、Powerpointのデータを印刷用に変換いたします

制作いただいたデザインを元に弊社で**別途有料**でデータ制作いたします。詳しくはサイト内「デザインデータ制作」をご覧ください。

Ai Illustratorで作成する場合

- IllustratorのバージョンはCCまで対応しております。
- カラーモードは「CMYKカラー」にしてください。
- 全てのフォントをアウトライン化してください。
- トリムマークを作成し、3mm塗り足し部分までデザインを伸ばしてください。
- 原寸サイズでデータを作成されない場合は、必ず縮小率と仕上がりサイズをデータの欄外等に明記してください。
(原寸サイズの作成を推奨しております)
- 保存の際には「Illustratorオプション」内の「PDF互換ファイルを作成」にチェックを入れないでください。
また、「圧縮を使用」のチェックは入った状態をお願いします。
- 入稿データと合わせて**確認用jpg画像**をつけてください。
- 画像ファイルを配置している場合は、すべて同一フォルダ内に入れてください。
- ファイルが壊れる可能性があるため、必ず**圧縮**してください。

Ps Photoshopで作成する場合

- psd、eps、jpg形式で作成してください。
- psd形式の場合は、**画像を統合**してください。
- カラーモードは「CMYKカラー」にしてください。
- ピクセル縦横比は正方形ピクセルをお願いします。
- 解像度は、原寸で**70~100dpi**程度でお願いいたします。
- 入稿データと合わせて**確認用jpg画像**をつけてください。
- 画像ファイルを配置している場合は、すべて同一フォルダ内に入れてください。
- ファイルが壊れる可能性があるため、必ず**圧縮**してください。

インクジェット出力なので特色印刷はできませんが、DIC・PANTONEでの色指定がある場合は、ご指定いただければ色味を調整の上印刷いたします。(Illustratorのデータのみ)

配置されている画像ファイルやPhotoshopにてデザイン制作された場合については、色調整ができません。ご入稿いただいたデータをそのまま印刷する形になりますのでご了承ください。

入稿データサイズ [記者会見・デザインバックパネル]

Illustratorで作成する場合は、テンプレートファイルをご利用いただけます

サイト左側メニュー内「[テンプレートダウンロード](#)」より、原寸サイズのテンプレートファイルをダウンロードいただけます。テンプレートに合わせてデザインを制作いただければデータの不備も発生しにくくなりますので、Illustratorをご利用の方はテンプレートファイルをご利用いただきますようお願いいたします。

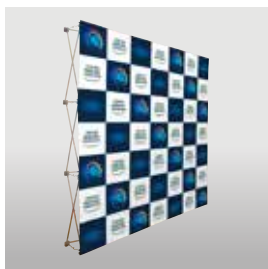
※テンプレートファイルは本体仕様の変更などの理由で予告なく変更する場合がありますので、過去のテンプレートを使用せずに最新のものをご利用いただきますようお願いいたします。

データ入稿は data@d-plan.cc へお願いいたします。

10MB以内の場合 ▶ **メール入稿** データの圧縮を忘れずにお願いいたします。

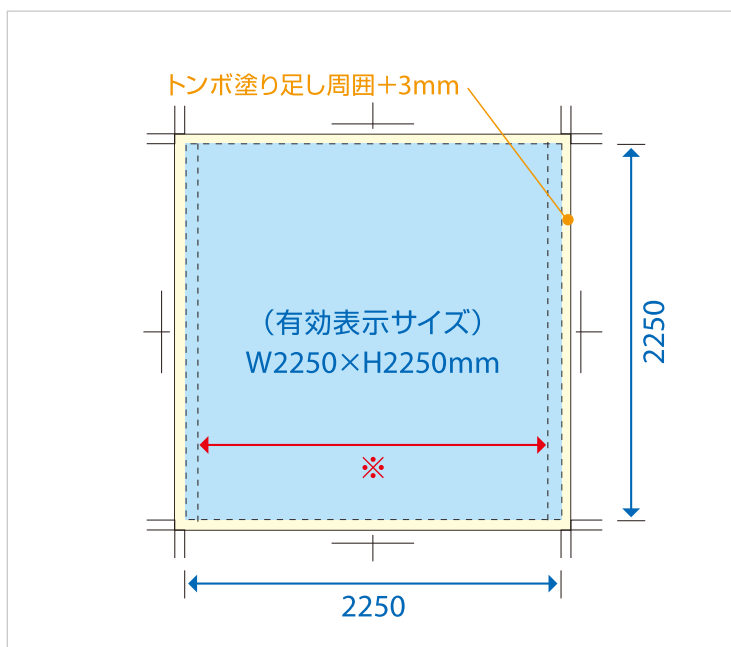
10MB以上の場合 ▶ **ファイル転送サービス** ご利用の転送サービスに応じてファイルサイズの上限が異なります。

屋内用3×3タイプ スタンダード



有効表示サイズW2250×H2250mmに対し、周囲の塗り足しを3mm伸ばして制作してください。印刷時に左右に若干(20mm程度)の伸びが生じます。

※**ロゴタイプやテキストなど切れて欲しくないオブジェクトは、仕上りサイズより左右20mm内側に配置してください。**

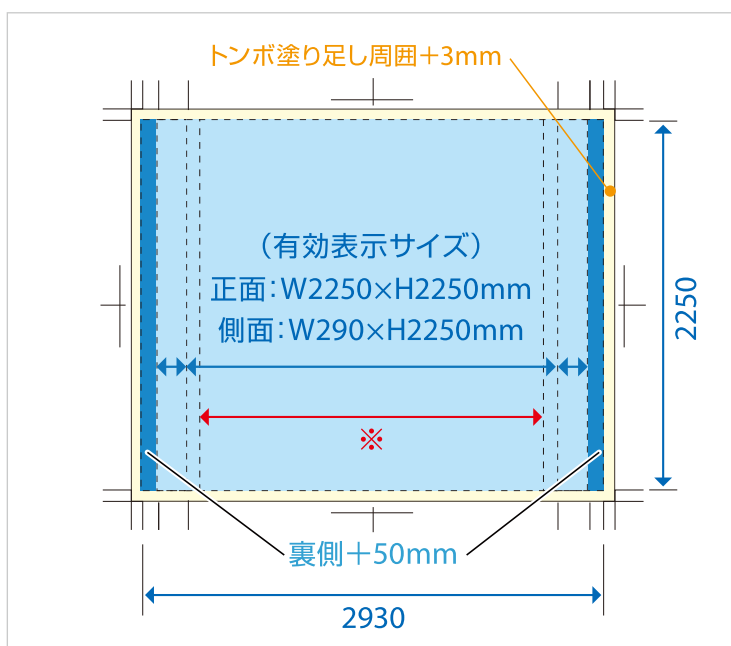


屋内用3×3タイプ デラックス



データ制作サイズW2930×H2250mmに対し、周囲の塗り足しを3mm伸ばして制作してください。印刷時に左右に若干(20mm程度)の伸びが生じます。

※**ロゴタイプやテキストなど切れて欲しくないオブジェクトは、正面有効表示サイズより左右20mm内側に配置してください。**

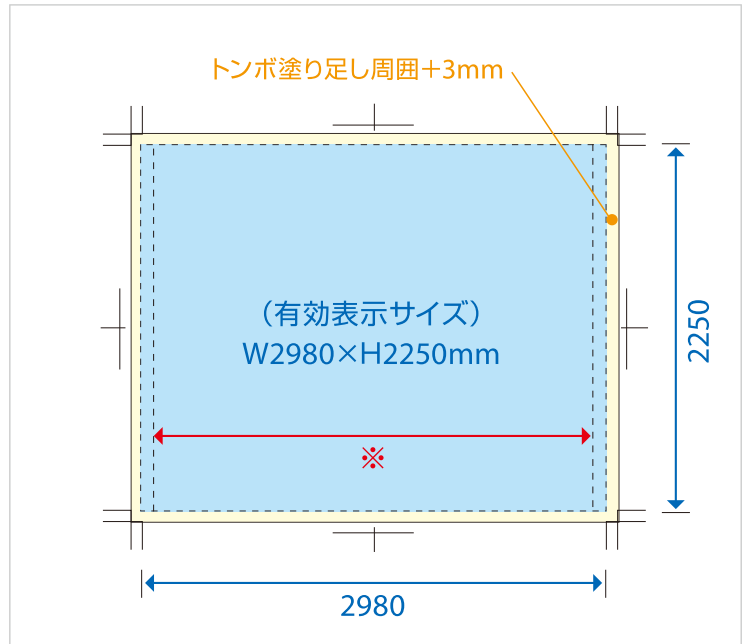


屋内用4×3タイプ スタンダード



有効表示サイズW2980×H2250mmに対し、周囲の塗り足しを3mm伸ばして制作してください。印刷時に左右に若干(20mm程度)の伸びが生じます。

※ロゴタイプやテキストなど切れて欲しくないオブジェクトは、仕上りサイズより左右20mm内側に配置してください。

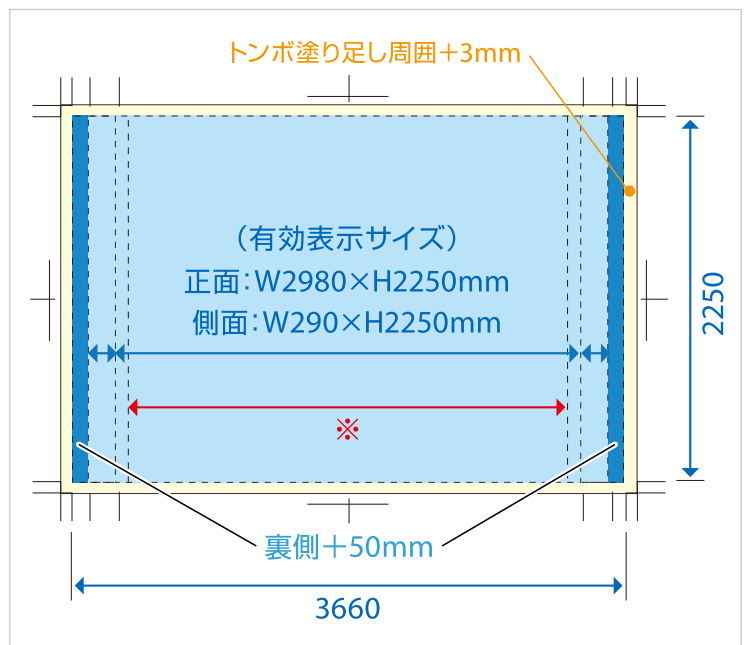


屋内用4×3タイプ デラックス



データ制作サイズW3660×H2250mmに対し、周囲の塗り足しを3mm伸ばして制作してください。印刷時に左右に若干(20mm程度)の伸びが生じます。

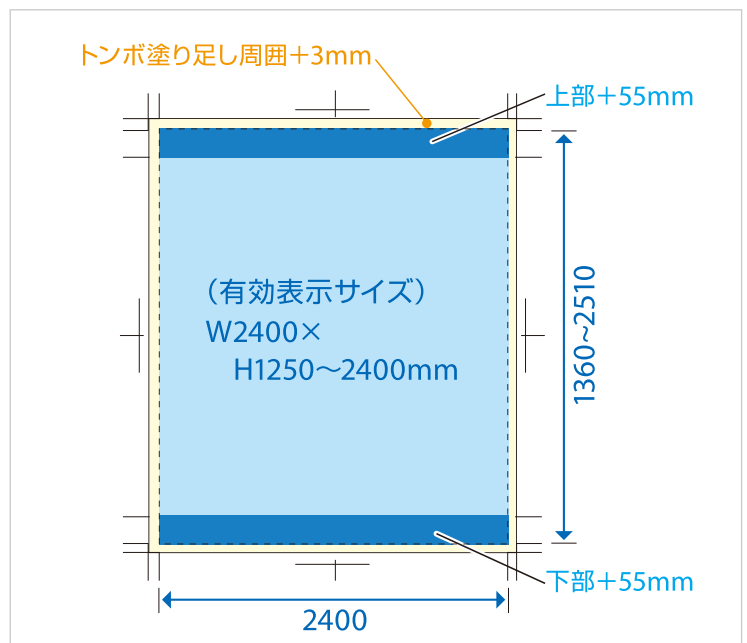
※ロゴタイプやテキストなど切れて欲しくないオブジェクトは、正面有効表示サイズより左右20mm内側に配置してください。



屋外用SDタイプ



有効表示サイズW2400×H1250~2400mmに対し、上に55mm、下に55mmデザインを伸ばしてください。(本体へセットするために必要な部分です)
その上で、周囲の塗り足しを3mm伸ばして制作してください。



制作時のポイント [記者会見・デザインバックパネル]

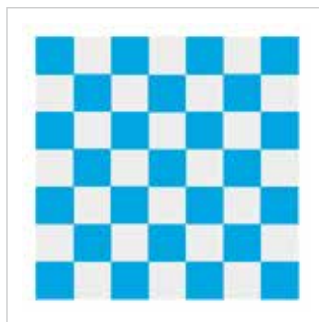
ご入稿いただいたデータを確認した際に度々見受けられる事例と対策をご紹介します。内容をご確認の上デザイン制作をお願いいたします。

ご不明な点になどございましたら、弊社までご連絡をお願いいたします。

事例 マス目がズレて配置されている

バックパネルのデザインとしては、企業ロゴなどをマス目で区切ってパターン化して配置するケースが多く見受けられますが、全体表示の状態でもマス目を移動・配置した場合、100%表示にするとマス目がズレて配置されている場合があります。

バックパネルの様な大型のものになると、データ上ではちょっとのズレに見える部分も、印刷するとかなり目立ってしまうので注意が必要です。



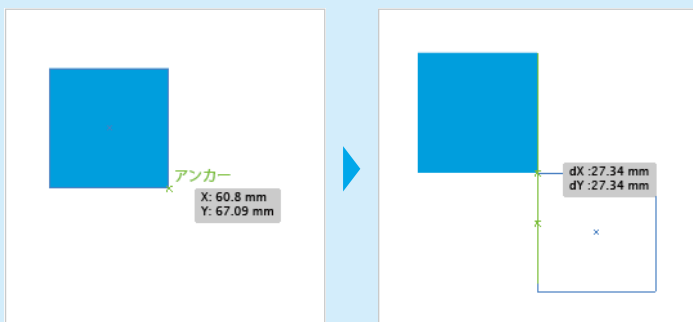
全体表示ではきれいに配置されているように見えても…



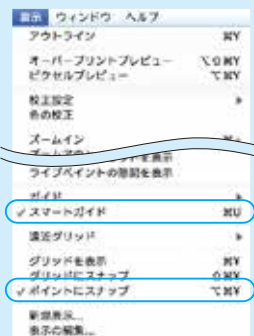
100%表示ではマス目のズレが確認できます。

対策 「スマートガイド」で正確な配置を

スマートガイドを使用すると、カーソルがオブジェクトに接した時に「パス」「アンカー」などが表示されるようになります。オブジェクトを選択して別のオブジェクトのパスやコーナーに接近させると、ある程度近づいたところでピッタリとくっきますので、見た目で合わせるよりも正確に移動させることができます。



[表示] → [スマートガイド] と [ポイントにスナップ] にチェックを入れてください。また [グリッドにスナップ] にチェックが入っている場合は解除してください。

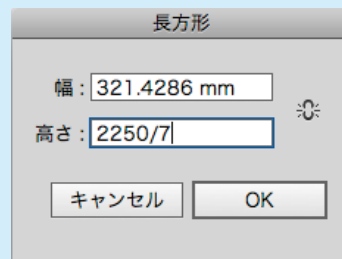


対策 正確なサイズでマス目を制作

例えば屋内用バックパネル3×3タイプで、横7マス×縦7マスに区切って配置する場合は、正確に1/7サイズの正方形を作る必要があります。

長方形ツールを選択した状態で適当な箇所をクリックすると数値を入れて制作することができますが、計算式を入れても可能です。右図のように「2250/7」と入れると自動的に計算され、「321.4286mm」と1/7の数値が出せます。

※実際のオブジェクトサイズは、四捨五入されて「321.429mm」となります。



事例 画像ファイルのサイズが大きすぎる

入稿データに配置した画像のファイルサイズが大きすぎて、弊社でのデータチェック等の作業に支障が出てしまう場合がございます。

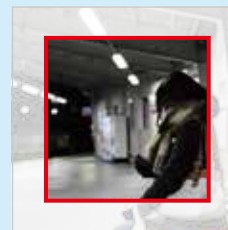
右図は使用する部分にマスクをかけていますが、使用する部分よりも不使用する部分が大きくなっています。この本来必要の無い画像部分があることでファイルサイズがかなり大きくなります。



対策 画像をトリミング(切り取り)して配置

Illustratorでマスクをかけていただく事自体は問題ありませんが、不必要に大きな画像をマスクをかけて制作するのはできるだけ控えていただき、元画像を予めトリミングした上での配置をお願いします。

特に背景全面に画像を配置する場合は、忘れずにトリミングしての配置をお願いします。



事例 画像ファイルのサイズが小さい

デザイン全体を表示しているときやA4～A3サイズの用紙にプリントしたものをしているときは、解像度の低めの画像を配置していても気づかない場合があります。

また、「ウェブサイトを使用している画像をそのまま利用したい」といったご要望もいただきますが、ウェブサイトで使用されている画像はサイズが出来るだけ小さくなるよう最適化されています。画像サイズが小さいものは、印刷用としては不向きですのでご了承下さい。

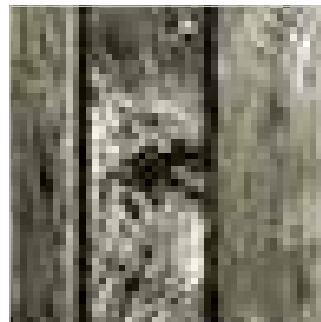
データ確認の段階で配置している画像が印刷に適さないと思われる場合は、よりサイズの大きい画像をご用意いただくようにしております。

もし、それ以上にサイズの大きいものをご用意できない場合につきましては、印刷で画質が粗くなることをご理解いただいた上で印刷いたします。

【全体表示出力時のイメージ】



【原寸サイズ出力時のイメージ】



A4～A3サイズでプリントする分にはそれほど問題ない画像サイズでも、数倍～十数倍に拡大して印刷すると非常に画像が粗くなってしまいます。

対策 解像度を上げて補正

Illustratorで拡大して配置した場合、画像のピクセル自体を拡大してしまうので、画像サイズによってはピクセルのカクカクした状態が目立って印刷されてしまいます。

Photoshopで解像度を上げて調整すると、ぼやけた印象はありますがピクセルのカクカクした印象は軽減されます。ノイズの軽減やアンシャープマスクなどの補正によってさらに画質を向上させることも可能です。

200～300%拡大する程度ならこれでも十分効果的です。



【拡大配置イメージ】



【解像度調整～補正後イメージ】



事例 背景が透明なpsdファイル

背景を透明にしたpsdファイルをイラストレーターに配置してのご入稿はお控えください。

画面上では気づかないのですが、印刷を行うと透明部分との境界線にうっすらと黒いラインが出てしまう場合があります。

明度の高い画像については特にご注意ください。また、印刷の仕上がりは印刷機によって異なります。

【背景が透明のpsdファイル例】



【印刷例】



対策 画像を統合し、クリッピングパスを作成

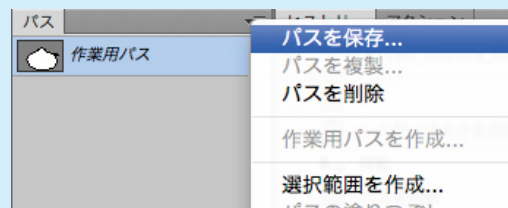
1. パスの作成

ペンツールで「パス」を選択し、切り抜きたい形の輪郭に合わせて線を引きます。実際の輪郭よりも若干内側にパスを引くことで、背景の色が出ずにきれいに切り抜けます。



2. パスの保存

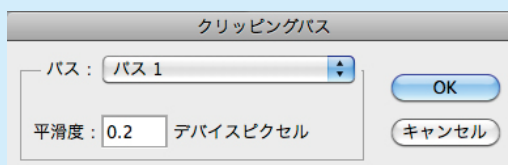
パスウィンドウのメニューから「パスを保存」を選択します。パスの名前は任意で構いません。



3. クリッピングパスの作成

再度パスウィンドウのメニューを表示して「クリッピングパス...」を選択します。保存したパス名を選択して平滑度を「0.2」デバイスピクセルと入力してください。

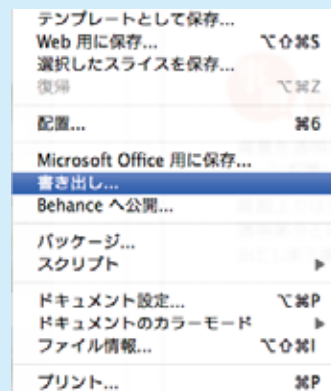
(数値が小さいほど配置した際になめらかな曲線で切り抜かれます。「0.2」が選択できる最小の数値となります。)



対策 背景のデザインと合わせて画像に書き出し

Illustratorで配置した背景が透明な画像と下になるオブジェクト部分のデザインを合わせて1枚の画像としてjpgかpsd形式で書き出します。背景と統合された画像を同じ位置に配置すれば、見た目には違いはありませんが、印刷時にエッジに黒いラインが出ることはありません。

上にテキストが乗ったりレイヤーが複雑な場合は、再配置によりデザインが変わらないようご注意ください。





本社 〒390-1401 長野県松本市波田1528-2

東京支社 〒182-0024 東京都調布市布田4-11-5明ビル102
TEL.042-443-3388 FAX.042-443-3322

データ入稿は

E-mail

data@d-plan.cc

10MB以上のデータに関しましては
ファイル転送サービスをご利用ください

お問い合わせは



0120-205585

受付時間

9:00~18:00 (土・日・祝日を除く)